

令和8年4月1日

農学部 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	各学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委員会	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	卒業生調査	DP1～4	毎年1回	卒業後1年以上経	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身につ	教務委員会・自己点	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支

				過の卒業生	いた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	検評価委員会	援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部長・学生支援課・教務委員会・学生生活委員会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	每学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教育研究評価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	每学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	各学科・学生支援課等	農学部の各学科教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学部・自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生生活委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用

14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5 月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、 今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活 用
15	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員 会・学生支 援課	農学部教務委員会、学生支援課等が入学時点の英 語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分 けに活用

以 上

令和8年4月1日

農学部農業生産科学科 アセスメントプラン
(令和9年度以降 農学科に変更予定))

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究レビュー	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	農業生産科学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

						員会	
5	卒業生調査	DP1 ～4	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部 長・学生 支援課・ 教務委員 会・学生 生活委員 会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	毎学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教育研究評価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	毎学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	農業生産科学科・学生支援課等	農業生産科学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対す	学生生活委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充

					る評価		実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年 4～5月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活用
15	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員会・学生支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

農学部水産学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	水産学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

						員会	
5	卒業生調査	DP1 ～4	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部長・学生支援課・教務委員会・学生生活委員会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	毎学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教育研究評価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	毎学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	水産学科・学生支援課等	水産学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対す	学生生活委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充

					る評価		実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年 4～5月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活用
15	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員会・学生支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

農学部応用生命化学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	応用生命化学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

						員会	
5	卒業生調査	DP1 ～4	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己点検評価委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部長・学生支援課・教務委員会・学生生活委員会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	毎学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教育研究評価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	毎学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	応用生命化学科・学生支援課等	応用生命化学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対す	学生生活委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充

					る評価		実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年 4～5 月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活用
15	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員会・学生支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

農学部食品栄養学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	食品栄養学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委員会	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	卒業生調査	DP1	毎年1回	卒業後1年	現在の就業状況、大学に対	教務委員	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会

		～4		以上経過の 卒業生	する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	会・自己 点検評価 委員会	議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員 会・自己 点検評価 委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	特別講義試験アンケート	DP1 ～4	随時、及び毎年1～3月	卒業学年	管理栄養士国家試験勉強における感想（反省点、改善点など）	食品栄養 学科	食品栄養学科内の全教員で結果を共有し、管理栄養士国家試験対策の改善や自己点検・評価、次年度学生への指導方法改善に活用
8	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部 長・学生 支援課・ 教務委員 会・学生 生活委員 会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
9	学修振り返りアンケート	CP	毎学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教 育研究評 価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
10	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	毎学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	食品栄養 学科・学 生支援課 等	食品栄養学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
11	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援 課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	学生生活実態	CP	隔年9～	全学年	学生生活、課外活動の経	学生生活	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部

	調査		10月		験、学修行動、大学に対する評価	委員会	のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
14	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
15	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活用
16	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員会・学生支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

農学部環境管理学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	環境管理学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委員会	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	卒業生調査	DP1	毎年1回	卒業後1年	現在の就業状況、大学に対	教務委員	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会

		～4		以上経過の 卒業生	する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	会・自己 点検評価 委員会	議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己 点検評価 委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部 長・学生 支援課・ 教務委員 会・学生 生活委員 会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	每学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教 育研究評 価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	每学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	環境管理 学科・学 生支援課 等	環境管理学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援 課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生生活 委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学

					学力		試験の改善、入学者の現状把握に活用
14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5 月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	教務委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、 今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活 用
15	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員 会・学生 支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学 時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学 教育のクラス分けに活用

以 上

令和8年4月1日

農学部生物機能科学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP1～4	2月	卒業学年	卒業研究の学修成果	教務委員会	生物機能科学科の個々の教員が評価を行い、結果を農学部教務委員会で集約し、農学部での授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～4	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度等	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	全国学生調査（最終年次）	DP1～4	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	学生支援課	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生の進路状況	DP1～4	毎年度末	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職・インターンシップ委員会	キャリアセンターが農学部へ報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	卒業生調査	DP1	毎年1回	卒業後1年	現在の就業状況、大学に対	教務委員	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会

		～4		以上経過の 卒業生	する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	会・自己 点検評価 委員会	議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会・自己 点検評価 委員会	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学部長会談	CP/ DP1 ～4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	農学部 長・学生 支援課・ 教務委員 会・学生 生活委員 会	農学部（学部長、学生生活委員長、教務委員長、学生支援課等）で実施後に学生センターで報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 農学部自己点検・評価委員会に連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生センターにて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
8	学修振り返りアンケート	CP	每学期2回（中間アンケート含む）	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD・教 育研究評 価委員会	農学部（教務委員会、FD・教育研究評価委員会、学生支援課等）が結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	成績不振学生、休退学の調査・面談	CP	每学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	生物機能 科学科・ 学生支援 課等	生物機能科学科の教員が自学科の学生に対する面談を実施し、修学及び学習支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	全国学生調査（2年次）	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	学生支援 課	IR・教育支援センターが農学部並びに教学運営会議に報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が農学部へ報告し、農学部授業方法やカリキュラム改善、学習支援や低学年時における学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生生活 委員会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、農学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎	教授会	入学センターが大学協議会や農学部へ報告し、入学

					学力		試験の改善、入学者の現状把握に活用
14	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5 月ごろ	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	教務委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が農学部へ報告し、入学時の汎用的能力の把握、 今後の学習支援、自己点検・評価、情報公開に活 用
15	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト TOEIC®テスト	教務委員 会・学生 支援課	農学部教務委員会、学生支援課等が農学部へ入学 時点の学生の英語習熟度を把握し、習熟度別語学 教育のクラス分けに活用

以 上